

NPOと県との協働推進ミーティング

NPO協働提案推進事業審査評価委員による講評

■全体会について

- ・NPOが行政職員に、行政職員がNPOに語りかける形の設定がよかった。
- ・NPOと行政が双方の立場を分かった上で分科会に入れたので、導入として適切であった。

■分科会について

【第1分科会；福祉Ⅰ】

安田委員 提案テーマによっては、NPOと県との意図が一致しており、協働の可能性があると感じられた。今回のミーティングのような機会が多くあれば、協働が進むのではないかと感じた。

【第2分科会；福祉Ⅱ】

望月委員 NPO単体でできることには限りがあるので、今日のような場を通じて、他の団体とのネットワークをつくっていくことが大事である。

また、県に直接の担当窓口はない分野でも、切り口をかえてみれば窓口が見つかる場合があるので、県職員は、そうした助言も含め、NPOの相談相手になってほしい。今回のミーティングは、NPO相互でのアドバイスもあり、参加したNPOにとっても勉強になったのではないかと感じた。

真下委員 NPOからテーマを提案された担当課の職員もよく発言し、NPOと県の双方にとってよかったと思う。しかし、NPOからの提案の一部に、県に何を求めて提案しているのかがはっきりしないものがあった。自分たちのやりたいことを整理しながら提案できるようにするには、これからの取組みが大切である。

【第3分科会；文化・国際】

野島委員 行政からの提案は、行政が本来すること、NPOがすること、協働ですることの考え方の整理がされており、適切だった。一方、NPOからの提案は、NPOがすることと協働ですることが混乱しており、行政をアテにしているような印象があった。

しかし、NPOからの提案については、提案内容が整理されていないから受けないということではなく、当面は広く提案を募集した上で、それを踏まえて切り分ける作業をしていく方が、協働を推進するためには必要である。

津久井委員 NPOからの提案には、自分たちの活動をどうやって広げたらいいのかわからない状態の内容もあったが、そうした提案についてNPO同士で、アドバイスを含めた意見交換ができたのはよかった。

【第4分科会；農業・河川】

秋元委員 個々の担当課との協議は今までもあったのかもしれないが、公開の場で、県職員との意見交換ができたのはよかった。

これからは、NPOが、地域のコーディネートをすることが大切である。

【第5分科会；公園】

松本委員 県からの提案は、自分たちのビジョンがはっきりしておらず、悪く言えば丸投げ的な印象があった。NPOからの提案は、指定管理者となることも視野に入れた提案であったので、県の方でも、指定管理者とNPOの連携について、何らかの手法を工夫してほしい。

【第6分科会；地域づくり】

鷺巣委員 NPOからの提案は、とにかく自分たちの考えや意見をきいてほしいという感じが前面に出てしまったのは、残念だった。

行政からの提案は、具体的な投げかけではあったが、企画そのものが初めからNPOありき、という印象であったので、事業の進め方そのものに工夫が必要ではないかと感じた。